

「ひと」分野

政策
3

「福島ならではの」教育の充実

全国学力・学習状況調査において、算数・数学や英語が全国平均を下回っており、また、学力が低い層が多いなど学力面に課題があります。さらに震災の影響等により心のケアが必要な子どもが多く、不登校児童生徒数も増加している状況です。加えて、改善傾向にあるものの、体力面において男子が全国平均を下回っているとともに、肥満傾向児の出現率は男女ともに全国平均よりも高く、健康課題の改善を要する子どもが多く存在します。

一方で、東日本大震災・原子力災害からの復興の過程で生まれた課題そのものを学びとする探究活動や風評を払拭する観点からの農業高校等における GAP 教育等の先端的な教育活動により、特色・魅力ある教育が進展しています。

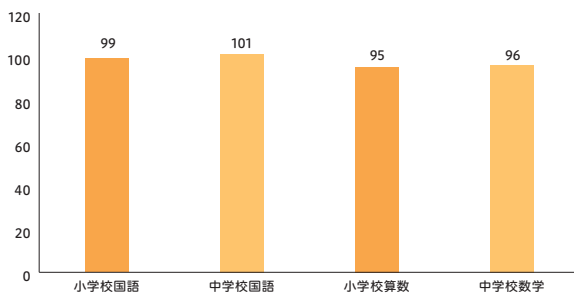
また、震災があったからこそ芽生えた子どもたちの意識（感謝の気持ちや地域へ貢献したい気持ち等）の高さなど福島ならではの強みも生まれています。

複合災害による課題先進県だからこそその課題解決学習を通して、知識や技能の習得だけではなく、世界共有の課題に挑戦する当事者意識等を育成する取組によって、急激な社会の変化の中において、自分の人生を切り拓くたくましさを持ち、多様な個性をいかしながら、対話と協働を通して、社会や地域を創造することができる人を育成していく必要があります。

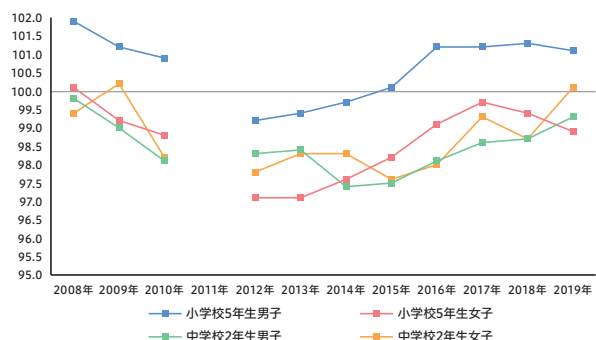


地域と共に創る放射線・防災教育推進事業

令和3年度全国学力・学習状況調査結果
(全国を100とした本県の割合)



全国体力・運動能力、運動習慣等調査【体力合計点】経年変化
県平均/全国平均



施策

1

「学びの変革」の推進と資質・能力の育成

児童生徒の発達段階に応じた資質・能力の育成や、ICT等先進技術を活用した多様な学びを推進し、一人一人に最適な学習環境づくりに取り組みます。



【主な取組】

①学校段階を見通した確かな資質・能力の育成に関する取組

幼児教育段階から非認知能力を育成するとともに、幼小中高が連携し、知識・技能に限らず、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等、変化の激しい社会にも対応できる資質・能力を育成します。

②複雑な社会の課題を主体的に解決する力の育成に関する取組

文理横断した知見を必要とする複雑な社会の課題に対して主体的に向き合い、解決する力を育成するため、プロジェクト学習（SDGsの視点を活用した地域課題解決学習、校則等に係る学校経営に生徒が主体的に参画する活動）等を学校の実態に応じて推進します。

③ICTの活用等による学びの変革に関する取組

1人1台端末の導入等を踏まえ、これまでの対面での教育実践とICT、紙とデジタルの双方の良さを取り入れた「個別最適化された学び」、「協働的な学び」、「探究的な学び」を実現する取組を推進します。あわせて、情報モラル等情報活用能力を育成します。

施策

2

学校組織の活性化の推進

教職員の働き方改革の推進や柔軟な教職員体制を整備し、多様化する教育ニーズへの対応力を強化します。



【主な取組】

①教職員の働き方改革の推進に関する取組

教職員の長時間勤務を是正し、教職員の心身の健康の保持や児童生徒と向き合う時間の確保、積極的な自己研鑽の時間の確保等によって質の高い教育活動を展開し、学校全体の教育力を高めます。

②教員の養成・採用・研修に関する取組

教員採用試験において、一般選考に加え、教職経験者、臨時的任用教員経験者、スポーツ・芸術等の特別選考を実施し、深い専門性や実践的指導力のある教員の採用に努め、多様化、複雑化する教育ニーズに対応します。

③学校マネジメントの推進に関する取組

学校の抱える課題が多様化・複雑化している現状に鑑み、学校の指導体制の充実とチーム力の強化を図るため、副校長や主幹教諭等を配置し、きめ細かな指導と迅速な対応ができるよう校長のリーダーシップの下、チーム力の強化に努めます。また、教職員一人一人の倫理観や使命感の高揚を図る取組を継続実施します。

施策

3

多様性を重視した教育の推進

様々な背景を持つ児童生徒への個別支援や地域と連携した家庭教育の支援体制づくりに取り組み、一人一人の個性を伸ばす教育を推進します。



【主な取組】

①特別支援教育の充実に関する取組

障がいのある子どもたちが地域で共に学び、共に生きることができるよう、医療、保健福祉、教育、労働などの関係機関と連携を深め、個別の教育支援計画の引継ぎ等により、切れ目のない支援の充実を図ります。

②不登校児童生徒、帰国児童生徒、外国人児童生徒等への個別支援の充実に関する取組

不登校及びその傾向のある児童生徒へのスペシャルサポートルーム（SSR）の活用や、外国人児童生徒や帰国児童生徒への日本語習熟の授業等個別支援を進めるとともに、学びの機会を確保するための取組を県内に普及します。

③心のケアの充実に関する取組

道徳教育の充実、自然体験活動の推進などにより、思いやりの心などの豊かな心の育成を推進します。また、被災した児童生徒を始め、子どもたちの心のケアのためスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置するなど、教育相談体制の充実を推進します。

④家庭の経済的支援の充実に関する取組

被災した子どもたちに対する就学援助や、能力があるにもかかわらず経済的理由によって修学が困難と認められる生徒に対し、奨学資金の貸与等を行います。

⑤家庭教育支援の充実に関する取組

「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう作成した学習プログラムの活用や、親を支援する家庭教育支援者のスキルを高める研修会を実施します。

施策

4

福島に誇りを持つことができる教育の推進

震災の教訓の継承や避難地域における特色ある教育を展開し、福島の未来を担う人材の育成に取り組みます。



【主な取組】

①福島の今と未来の発信と震災の教訓の継承に関する取組

被災地や震災関連施設等を訪問し、被災者等との交流・協働、放射線・防災等に関する基礎的な知識や身の回りで行われている復興への取組を基に、郷土理解を促進するとともに、自ら考え、判断し、行動できる力を育成します。

②福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成に関する取組

小・中学校における理数教育、放射線・防災教育や、高等学校における各校の専門性をいかした学校間や企業等との交流・連携を推進し、国際教育研究拠点との連携を見据えながら、チャレンジ精神を持って本県の復興・創生に貢献する人材の育成を進めます。

③地域社会と学校が一体となって子どもを育てる取組

「地域コーディネーター」の配置やコミュニティ・スクールの導入等により、地域住民等と学校が連携・協働する体制づくりを促進しながら、各校の特色化や魅力化を図ります。また、地域課題探究学習の推進により、郷土理解を促進するとともに、子どもたちに対し、様々な経験ができる機会の充実を図ります。

施策

5

人生100年時代を見通した多様な学びの場づくり

人生100年時代において、健康で豊かな人生を選び取ることができるよう、生涯にわたって学び続けることができる環境づくりを推進します。



【主な取組】

①子どもたちの健康教育の推進に関する取組

児童生徒自らが望ましい運動習慣や食習慣を確立し維持できるよう、自分の健康課題を認識し、その解決に積極的に取り組める自己マネジメント能力の育成を推進します。

②文化財の保存と活用に関する取組

文化財保存活用大綱に規定した、県全体の理念、基本方針の下、市町村と県がそれぞれの役割を認識し、積極的に保存と活用を推進し、文化財をいかしたひとづくり、まちづくりとの連携を図ります。

③社会教育施設等の利活用の促進に関する取組

県立図書館、県立美術館、県立博物館、文化財センター白河館、県文化センター、アクアマリンふくしま、東日本大震災・原子力災害伝承館、環境創造センター交流棟コミュタン福島において、常設展、企画展、教育普及事業などの充実を図ります。

④生涯学習の機会提供に関する取組

県の施設、公民館、大学等高等教育機関などにおいて、様々な講座やセミナーを開催し、県民に対してライフステージに応じた生涯学習の機会を提供します。また、市町村などと連携して生涯学習の機会の情報提供を行います。

施策

6

安心して学べる環境づくり

少人数教育の充実や放課後児童クラブ等の整備に取り組み、子どもたちが安心して学べる環境づくりを推進します。



【主な取組】

①少人数教育の充実に関する取組

専科指導を含めた少人数によるきめ細かな指導体制の構築や、過疎・中山間地域における極少数での学びの充実のための取組を支援します。

②避難地域12市町村などの特色ある教育に関する取組

避難地域12市町村の小中学校において特色あるカリキュラムを編成、実施するとともに、地域とのつながりを深める教育や魅力ある学校づくりを行うために必要な取組を支援します。

③私立学校の振興に関する取組

私学助成の充実や安定的・継続的な教育環境を確保するための取組などへの支援により、私立学校の振興を図ります。

④放課後の子どもの学習活動、交流活動に関する取組

全ての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、新・放課後子ども総合プランに基づき、放課後児童クラブの施設整備や放課後児童支援員の確保、放課後子ども教室に従事する者の質の向上に努めます。

基本指標（成果指標）

< 政策 3 >

「福島ならではの」教育の充実

地元自治体等と共に課題解決に向けた学習活動を実施した学校の割合（高等学校）	< 現況値 > < 目標値 >	— ↑ 100%	(R12 年度)
---------------------------------------	--------------------	-------------	----------

< 施策 >

「学びの変革」の推進と資質・能力の育成

全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との比較値（全国=100）（小・中学校）（小学校 国語）	< 現況値 > < 目標値 >	99 ↑ 102 以上	(R3 年度) (R12 年度)
//（小学校 算数）	< 現況値 > < 目標値 >	95 ↑ 100 以上	(R3 年度) (R12 年度)
//（中学校 国語）	< 現況値 > < 目標値 >	101 ↑ 102 以上	(R3 年度) (R12 年度)
//（中学校 数学）	< 現況値 > < 目標値 >	96 ↑ 100 以上	(R3 年度) (R12 年度)
ふくしま学力調査の結果の経年比較により、学力が伸びた児童生徒の割合（小・中学校）（小学校 国語）	< 現況値 > < 目標値 >	83.5% ↑ 100%	(R3 年度) (R12 年度)
//（小学校 算数）	< 現況値 > < 目標値 >	73.5% ↑ 100%	(R3 年度) (R12 年度)
//（中学校 国語）	< 現況値 > < 目標値 >	76.3% ↑ 100%	(R3 年度) (R12 年度)
//（中学校 数学）	< 現況値 > < 目標値 >	70.8% ↑ 100%	(R3 年度) (R12 年度)
CEFR A1 以上（英検 3 級以上相当）の英語力を有する生徒の割合（中学 3 年生）	< 現況値 > < 目標値 >	37.3% ↑ 50.0%	(R 元年度) (R12 年度)
CEFR A2 以上（英検準 2 級以上相当）の英語力を有する生徒の割合（高校 3 年生）	< 現況値 > < 目標値 >	34.7% ↑ 50.0%	(R 元年度) (R12 年度)

学校組織の活性化の推進

時間外勤務時間月 80 時間を超える教職員の割合	< 現況値 > < 目標値 >	12.1% ↓ 0%	(R2 年度) (R12 年度)
--------------------------	--------------------	---------------	---------------------

多様性を重視した教育の推進

不登校の児童生徒数（小・中学校） ※ 1,000 人当たりの出現率	< 現況値 > < 目標値 >	16.4 人 数値は毎年度把握し分析する (目標値は設定しない)	(R 元年度)
不登校の生徒数（高校） ※ 1,000 人当たりの出現率	< 現況値 > < 目標値 >	8.8 人 数値は毎年度把握し分析する (目標値は設定しない)	(R 元年度)

福島に誇りを持つことができる教育の推進

震災学習の実施率	< 現況値 > < 目標値 >	30.7%（参考値） ↑ 100%	(R2 年度) (R12 年度)
地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合	< 現況値 > < 目標値 >	17.0%（参考値） ↑ 100%	(R2 年度) (R12 年度)

人生 100 年時代を見通した多様な学びの場づくり			
全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの全国平均との比較値 (全国=100) (小5男子)	<現況値> <目標値>	98.9 ↑100.0以上	(R元年度) (R12年度)
〃 (小5女子)	<現況値> <目標値>	101.1 ↑101.9以上	(R元年度) (R12年度)
〃 (中2男子)	<現況値> <目標値>	99.3 ↑100.0以上	(R元年度) (R12年度)
〃 (中2女子)	<現況値> <目標値>	100.1 ↑100.2以上	(R元年度) (R12年度)
自分手帳の活用率 (小学生) (再掲)	<現況値> <目標値>	95.5% ↑100%	(R2年度) (R12年度)
〃 (中学生) (再掲)	<現況値> <目標値>	87.9% ↑100%	(R2年度) (R12年度)
〃 (高校生) (再掲)	<現況値> <目標値>	23.3% ↑100%	(R2年度) (R12年度)
肥満傾向児出現率の全国平均との比較値 (全国=100) (再掲)	<現況値> <目標値>	133.8 ↓100.0	(R元年度) (R12年度)
安心して学べる環境づくり			
放課後児童クラブの申込児童に対する待機児童数の割合	<現況値> <目標値>	3.6% ↓0%	(R2年度) (R12年度)

補完指標

(指標名)	(現況値)	(目標値)
◆ 「「福島ならではの」の教育の充実」関連		
・福島県の教育環境に満足していると回答した県民の割合 (意識調査)	R3年度 41.1% ※速報値	R12年度 73.0% 以上
◆ 「「学びの変革」の推進と資質・能力の育成」関連		
・児童生徒がコンピューター等のICTを活用する学習活動を行う回数 (1クラス当たり) (公立小・中学校) (「ほぼ毎日」小学校)	R3年度 35.2%	R12年度 ほぼ毎日 100%
・〃 (「ほぼ毎日」中学校)	R3年度 53.9%	
・〃 (「週1回以上」小学校)	R3年度 46.8%	
・〃 (「週1回以上」中学校)	R3年度 34.1%	
・自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 (小学校)	R3年度 74.2%	
・〃 (中学校)	R3年度 72.9%	R12年度 100%
◆ 「学校組織の活性化の推進」関連		
・地域の人と連携した授業等を複数回行った教員の割合 (小・中・高・特別支援学校)	—	R12年度 100%
・全国学力・学習状況調査の結果をふくしま学力調査等の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合 (「行っている」小学校)	R3年度 95.1%	R12年度 100%
・〃 (「行っている」のうち「よく行っている」小学校)	R3年度 23.9%	R12年度 50%
・〃 (「行っている」中学校)	R3年度 91.7%	R12年度 100%
・〃 (「行っている」のうち「よく行っている」中学校)	R3年度 18.4%	R12年度 50%
◆ 「多様性を重視した教育の推進」関連		
・個別の教育支援計画の引継ぎ率	R元年度 70.9%	R12年度 100%
◆ 「人生 100 年時代を見通した多様な学びの場づくり」関連		
・市町村における文化財保存活用地域計画を作成した市町村数	R3年度 0市町村	R12年度 10市町村
・朝食を食べる児童生徒の割合 (小・中・高・特別支援学校)	R2年度 96.5%	R12年度 100%